

令和元年度 佐賀県立佐賀農業高等学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
校訓:「質実剛健、明浄真正」 スローガン:「チャレンジ！佐農生」 教育目標 「農業の専門教育を柱とし、様々な教育活動を通して、地域や社会に貢献できる有為な人材を育成する。」	(1)学力の向上と進路実現 (2)専門性を活かした特色ある取り組みの推進 (3)学校PRと学校情報の発信 (4)働き方改革の推進

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む



3 目標・評価				
①学力の向上と進路実現				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	○夢や目標に向かって努力しようという気持ちを育て、生徒一人ひとりの進路実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 希望進路実現100%を目指す。 職員間の連携を図り、生徒との信頼関係をより確かなものにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 講演会、学校行事・部活動を通し、生徒たちに目標に向かってチャレンジする気持ちを醸成する 全職員で進路希望把握に努め、進路実現に向けた支援に取り組む。
	●学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の教科指導力向上を目指す。 ○基礎学力や一般常識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時数を確保し、実施時間80%以上を目指す。 授業公開週間等を実施し教科指導内容を検討する。 基礎学力診断テストによる生徒の学力把握と授業・カリキュラムの改善に取り組む。 朝の学習(原則毎日)やプチテスト(毎週1回)の時間を確保し、学習習慣を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の精選・見直しを図り、授業時間確保に努める。 年に2回実施し各教職員で意見交換することで授業改善に取り組む。 基礎力診断テストの結果について、講師を招いて分析し、生徒の実情に適したカリキュラムと授業改善に活用する。 ICT教材を活用して基礎・基本の定着を図り、プチテスト等の不合格者を0にする。特に漢字テストでは年間平均19.5以上取得率を各学年20%を目指す。
②専門性を活かした特色ある取り組みの推進				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○専門性を生かした教育の実践。	○農業の専門教育における「固有の価値観」を身に付けさせ、「人間性豊かで逞しい社会人」を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 所属学科の専門学習への興味関心度を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験実習の内容改善に努め、普及センターや地域農業関連機関と連携しながら魅力ある授業を展開する。
	○地域連携・地域貢献。	○地域資源を活用した特徴ある取り組みの実践と地域連携・地域貢献を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 研究活動等の成果発表の場である農業クラブ県大会で3学科の入賞を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 県大会入賞を目標に設定することで、専門教科担当職員と生徒の意識向上を図り、生徒たちの探求心を喚起することで、質を高めた地域密着型研究活動を実践する。
	○SGH研究の推進。	○農業高校の専門性を活かしたスーパー・グローバル・ハイスクール(SGH)研究推進と改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 農業の専門分野におけるグローバルリーダーの育成を目指す。 課題研究をはじめとしたSGH事業の評価について検討する。 全教科でSGH事業に関わる教育プログラムの開発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 国内外研修や外国人との交流会を通して、グローバルな観点から農業の課題解決に意欲的に取り組む生徒数を増やす。 様々な評価方法を検討し、生徒や学校の変容を把握して、SGH事業の改善につなげる。 校内組織や役割分担を明確にするとともに、学科間や教科間で協働した、教科横断的な教育プログラムの開発を行う。

③学校PRと学校情報の発信				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○魅力ある佐農づくりの推進。	○様々な教育活動を学校情報として適宜発信し、学校のPRやイメージアップに努める。	・月1回以上の学校だより発行を目指す。 ・HPの更新を行う。 ・学校PRについて検討し、新たな取り組みを行う。	・広報部を中心に学校行事や各学科・学年の取り組みをまとめ、月1回、関係機関や保護者へ配布する。 ・HP担当者を位置づけし、月1回以上の更新を目指す。 ・新たに学校紹介ポスターを作り、関係中学校に掲示する。
④働き方改革の推進				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改革・教職員の働き方改革の推進	○業務改善や環境整備、部活動の適正化等に取り組み、時間外勤務を縮減を目指す。 ○効果的な教育活動を行い、健康で働きやすい職場づくりに努める。	・定時退勤日の設置と年休取得を推進する。 ・時間外勤務時間が原因の追究し改善策を検討する。 ・環境整備と働きやすい職場づくりの提供に努める。	・定時退勤日を週1回(水曜日)設け、また月1日以上年休取得を推進する。 ・月40時間を超える職員の削減に向け各職員(担当)の業務内容の見える化し、学校全体で改善を図る。 ・職場巡回(月1回以上)を実施し、環境整備に努める。
⑤本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
	●心の教育	○「地域を誇りに思う心」や「感謝する心」を育む。	・地域の清掃奉仕活動を行うことで、「他人を思いやる心や社会貢献の精神」「美しいものや自然に感動する心など柔らかな感性」等の育成を図る。	・全校ボランティア活動やプロジェクト活動の推進により、地域の魅力や佐賀の自然に触れる機会を増やす。
教育活動	●いじめ問題への対応	○人権を尊ぶ心の教育と未然防止に努める。 ○早期発見・早期対応体制づくりを図る。	・学習活動や人権同和教育を実施し、心の教育を推進する。 ・相談しやすい体制を整え、職員・家庭との連携によるいじめ等の問題の早期発見を目指す。	・農業教育を通して生き物を大切にすることを育てたり、人権について考える時間を設定する。 ・相談窓口を明確にし、相談しやすい環境を整える。また、日ごろから生徒の些細な変化も逃さず、職員・保護者と連携し、問題の早期発見と早期対応に努める。
	●健康・体づくり	○健全な食習慣や生活習慣の定着を図る。	・健全な食習慣や生活習慣の大切さを生徒主体で啓発させる。	・保健たよりや生徒保健委員会の活動を通して、生徒の視点から、健康のために正しい食習慣や生活習慣がどのように大切であるかを啓発する。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目